（第１１号様式）

事業実施報告書

1　事業の名称

ヒロシマ平和映画祭 2011　～映画交歓都市・国際シンポジウム

2　実施時期及び実施期間

映画祭期間中（2011 年 11 月 29 日～12 月 11 日）のうち
11 月 30 日、12 月 3 日、12 月 4 日、12 月 6 日

3　実施場所

広島市立大学広島平和研究所、広島平和資料館メモリアルホール
広島市国際青年会館研修室、spaceZERO

4　実施主体

ヒロシマ平和映画祭実行委員会

5　事業の目的

ヒロシマ平和映画祭は、これまで隔年で３回(2005 年、2007 年、2009 年)開催されいる。日頃公開される機会の少ない新旧の平和関連映画の傑作群を掘り起こし、広島市内外の映画館や施設を利用して上映してきた。この映画祭がこれまで育んできた国内外の国境を越えた人脈で地域のネットワークを深め、映画上映、シンポジウム、市街地の探索や飲食を包括的に取り込んだ新しい映画の鑑賞のスタイルを提案し、平和を考える場所を総合的に提供するとともに、それを通した地域の活性化を目指す。今年もこの目的にかなった映画祭となった。

6　実施内容（箇条書き）

・平和関係の海外映画（本テーマは約９本）上映とシンポジウム、トークショーを開催。
・日本未公開の作品『The Forbidden Bomb』に翻訳して字幕をつけて上映。
・ゲストに国内外上映作品の映像作家（日・米・韓・仏）、在日外国人と日本人の研究者、ｱｰﾁｽﾄを招聘。
・シンポジウムは、一般市民参加型の形式とし、会終了後もパネリストと参加者を交えた交流会も開催。

7　参加人数又は派遣人数（国外に派遣した場合、広島市民の人数も）

275 人

8　実施効果（箇条書き）

①　国内外の「核問題」「戦争」「平和」について映像で学べる場を提供することにより、広島市民に限らず、参加した在住外国人や広島県外からの参加者にも理解を深めてもらうことができた。
②日本及び世界中で起こっている、歴史上および現在における平和に限らず、人権問題、フェミニズム、福島原発事故等を考える機会を提供することで、「今の問題」をより深く認識することができた。
③参会者は、累計 275 人の動員数となり計画予算内で処理できた。

（第１３号様式）

事業実施内容及び所感文

事業名：ヒロシマ平和映画祭 2011　～映画交歓都市・国際シンポジウム

団体名：ヒロシマ平和映画祭実行委員会

実施時期及び実施期間：平成　23 年 11 月 30 日(水)～平成 23 年 12 月 6 日(火)（４日間）

実施内容：

日　程	場　所	交流・協力活動名	内　容
平成 23 年 11 月 30 日（水）	広島市立大学広島平和研究所	シンポジウム 「核・開発を再考する」	ロバート・ジェイコブズ（広島平和研究所准教授）、M.T.Silvia（『Atomic Mom』監督）、高橋博子（広島平和研究所講師）によるｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
12 月 3 日（土）	SpaceZERO（中区鶴見町のギャラリー）	車座シンポジウム 「女の平和を語る」	日・米・韓・仏の映像作家、アーチスト、研究者、農業指導員による「核・女性」をテーマに幅広いシンポジウムを展開
12 月 4 日（日）	広島市平和資料館メモリアルホール 広島市国際青年会館研修室	女が撮る～序章①	女性監督映画作品４本一挙上映。 ●日本初公開作品 『Atomic Mom』 M.T.Silvia 監督☆ 『The Forgotten Bomb』Stuart Overbey+Bud Ryan 監督。（当実行委字幕製作） 『AUGUST』 東美恵子監督☆ ●広島初公開作品 『女と孤児と虎』ｼﾞｪｰﾝ･ｼﾞﾝ･ｶｲｽﾝ監督 『レイテ・ドリーム』クム・ソニ監督＋パフォーマンス☆ ☆は、監督来広トークショー開催
12 月 6 日（火）	広島市立大学広島平和研究所　会議室	「核・開発を再考する」③	『棄てられたヒバク』（南海放送／伊東英明） 『封印された原爆報告書』（NHK／松木秀文） 2 本テレビドキュメンタリーを上映しディレクターを招いてシンポジウム開催
所　感	第４回目となるヒロシマ平和映画祭 2011 は、2011 年 11 月 29 日～12 月 11 日の 13 日間にわたって開催し、総合のテーマは『Different Voices』。東日本大震災という未曽有の天災・人災におそわれた 2011 年、被災者たちの声、歴史の中の声、女性たちの声、世界中のさまざまな現場の声…を聞く。このたびの貴財団から補助金を充填させていただいた事業は 2 日間であったが「映画交歓都市・国際シンポジウム」という事業テーマに即したものは、他にも開催できたので上記に加筆させていただいた。この 4 日間のシンポジウムや上映会では、ヒロシマナガサキ以降の核実験による被害の歴史、「福島原発事故」による放射能汚染の現在が、いかに衝撃的かつ甚大なものであるか、を国内外の研究者や映像作家によって問題提起され、放射能汚染の不安が続く今日、「核と平和」についてより深刻かつ有意義な議論が展開した。事業計画でも構想したとおり、各４日間のそれぞれの事業終了後、飲食をしながらの交流会も開き、広島県内、島根、大阪、京都、東京などの人々。フランス、韓国、アメリカ、ドイツの人々、広範な地域から参会者が一堂に会し、文字通り「国際的な」交流会として実現した。特筆すべきは、12 月３日４日の「内容」でもわかるように、今回は「女性監督」の作品上映と来賓が例年より多く実現できたことである。上映作品はすべて優れた傑作力作群であった。この傾向は「核と平和」の問題に女性こそが今、もっとも敏感にキャッチできる存在でもあるともいえる。集客は、11/30～15 人、12/3～40 人、12/4～220 人（4 回入替）と盛況となった。			

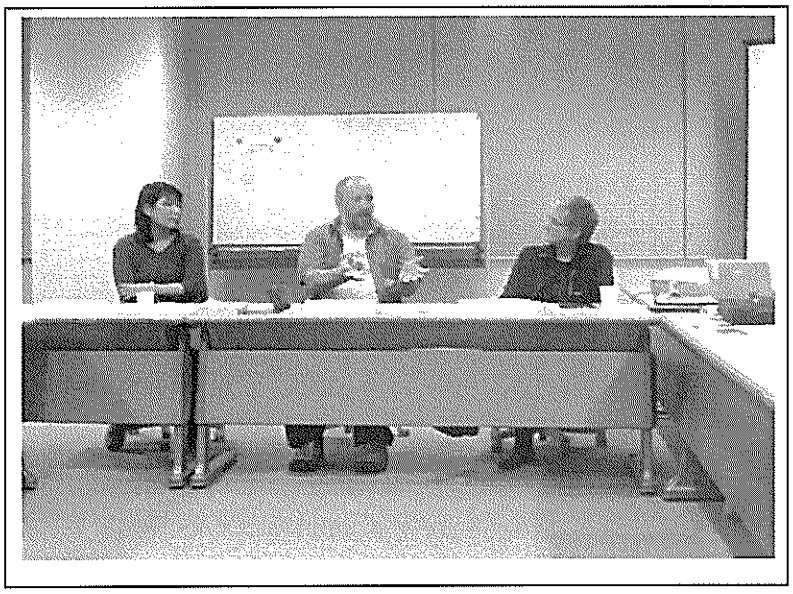
（第１４号様式）

添付写真

事業名：ヒロシマ平和映画祭 2011　～映画交歓都市・国際シンポジウム

団体名：ヒロシマ平和映画祭実行委員会

1



説明：11 月 30 日（水）シンポジウム「核・開発を再考する」　広島市立大学広島平和研究所　会議室
高橋博子（広島平和研究所講師）、ロバート・ジェイコブズ（広島平和研究所准教授）、M.T.Silvia（『Atomic Mom』監督）

2

説明：12 月 3 日（土）車座シンポジウム「女の平和を語る」SpaceZERO（中区鶴見町のギャラリー）
右二人目から M.T.Silvia（米映像作家）、鎌仲ひとみ（日映像作家）、一人あけてバティスト・ベセット（仏映像作家）

（第１４号様式）

添付写真

事業名：ヒロシマ平和映画祭 2011　～映画交歓都市・国際シンポジウム

団体名：ヒロシマ平和映画祭実行委員会

3

説明：12 月 4 日（日）女が撮る～序章①　広島市国際青年会館研修室の参会者

4

説明：12 月 6 日（火）「核・開発を再考する」③　広島市立大学広島平和研究所　会議室